



仙台張子(おぼこ)

東北地方の子供の玩具として江戸後期に誕生したこけしは、昭和初期に大人の鑑賞品へと変化し、3度のブームを引き起こしながら現在まで受け継がれてきました。

全国各地に郷土玩具は数多ありますが、こけしほど多くの収集家を持ち、出版物が多いものは他にありません。東北の風土を色濃く反映して生まれたこけしには、他の玩具には見られない独特な趣があると言われています。

かつてこけしも他の玩具と同じように時代の荒波を受けましたが、「伝統」という本質的なものは維持しつつもその時代ごとに受け入れられるべく変化してきました。

今回の企画展では、時代別にこけし・資料を展示しながらこけしの歴史をご紹介します。変わっていった作風やこけしへの美意識、変わらない伝統に基づく本質的な魅力などを感じていただければと思います。



『うなみの友』貳編(明治35年 芸艸堂)と掲載こけし



『こけし這子の話』天江富弥著
(昭和3年 郷土趣味会)



木形子作者人気番付
(昭和10年 木形子洞)

【交通のご案内】

バス(福島交通)

・土湯温泉行

福島駅東口より約30分

自治研修センター前 下車 800m

車

・福島西I.C.より10分

・福島飯坂I.C.より40分

